

教育現場に貢献する「問題解決型」遠隔授業と副教材の配付 新しい「モスの食育プログラム」の提供開始 これまで15年間で805回、46,295人の実績に、今回新手法を追加

モスバーガーを展開する株式会社モスフードサービス（代表取締役社長：中村 栄輔、本社：東京都品川区）では、2005年以来、全国各地域の小学校に出向いて近隣店舗スタッフが出張授業を行う「モスの食育プログラム」を実施してきました。今回、非接触型の新たな「モスの食育プログラム」を開発し、2021年4月より開始します。

これまでの「モスの食育プログラム」は、座学で「食の大切さ」を紹介し、その後の実習で児童とともに“テリヤキバーガー”づくりを行ってきました。小学校の近隣にある店舗のスタッフが出張授業を行うことで、地域社会と店舗が交流できる地域密着の食育を進めてきました。しかし2020年度は、新型コロナウイルス感染症の感染予防のためこの活動を休止しており、2021年度も休止見込みです。

今回、こうした状況に対応するため、食材を直接扱わない非接触型の新たな食育プログラムを開発しました。現在の教育現場がアクティブ・ラーニング※1を重視するなかで、これまでの製造体験とは異なる、子どもたち自身が考える「問題解決型」を大切なテーマとしました。

※1 「アクティブ・ラーニング：主体的・対話的で深い学び（文部科学省）」

■新「モスの食育プログラム」

今回追加するのは、手法の異なる2つのプログラムです。双方の活動を合計して2021年度中に約60校で10,000人以上の児童への食育プログラム実施を目指します。

1. 遠隔授業（オンラインによる授業）※2

中山間地域や離島など少人数校の教育格差の解消を目的のひとつとして、5校を対象にオンラインによる遠隔授業を行います。モスが開発した教材を活用し、事前課題として子どもたちに課題解決アイデアを考えてもらいます。その成果発表の授業にモスバーガーの近隣店舗や本部スタッフがプロのアドバイザーとして参加します。また、そのノウハウを活用し少人数校に限定せず、さらに5校程度の遠隔授業実施を計画しています。



〈遠隔授業イメージ〉

2. 副教材（小冊子）の提供※3

学習指導要領に沿って、5・6年生の家庭科向けに編集した副教材「考えよう！食べるということ」を制作し提供します。2021年度は全国約50校、10,000人の児童への配付をします。この副教材は、食べることへの感謝、食品ロスを考えるワークシートなどを収録しており、家庭科をはじめとする、さまざまな食育の場で使用されることを想定しています。



〈副教材表紙〉

※2 遠隔授業は、地方のキャリア教育格差縮小を目指す静岡大学教育学部発ベンチャー企業「一般社団法人プロフェッショナルをすべての学校に」と協同開催

※3 副教材（小冊子）は、「株式会社スタディマーケット」と協同制作

モスフードサービスでは、「人間貢献・社会貢献」の経営理念のもと、「おいしさ、安全、健康」という考え方を大切にした商品を「真心と笑顔のサービス」とともに提供することに一貫して取り組んでいます。児童に対する教育が進化していくなかで、新たな食育プログラムの提供を通じて地域・社会への貢献を進めてまいります。

店舗の休業や営業時間の変更および、メニューの一部を販売中止している場合がございます。また、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、お客さまの安全を第一に考え、安心してご利用いただけるように努めております。詳細は公式サイトをご確認ください (<https://www.mos.jp/>)。

<報道関係者からのお問い合わせ先>

株式会社モスフードサービス 広報 IR グループ TEL. 03-5487-7371 FAX. 03-5487-7389

<https://www.mos.co.jp/company/> E-mail. pr@mos.co.jp

<お客様からのお問い合わせ先>

お客様相談室 TEL. 0120-300900